

海中道路(うるま市)

うるま市の与勝半島と平安座島を結ぶ全長4.75キロメートルの海中道路は、1971年にアメリカの石油会社によって建設されました。1999年には片道2車線に整備され、島民の生活の利便性向上に加え、人気のドライブコースとして定着しています。2003年には道路の中間地点に「海の駅 あやはし館」がオープンしました。

復帰の頃



現在



久米周辺(那覇市)

国道58号は、米軍が整備した軍道1号線が復帰と同時に国道に移行したものです。九州・沖縄でも交通量の多い国道として知られ、写真の那覇市久米付近は復帰前から県内外の企業の看板が多く見られました。近年ではゆいレールの開通で利便性がさらに高まり、ホテルの進出も目立っています。

復帰の頃



現在



泊高橋(那覇市)

安里川河口に架設された泊高橋の周辺は、離島便が発着する泊港を利用する人たちのための商店や民宿などで復帰以前からにぎわっていました。現在は離島観光の人気も相まって、ホテルやダイビングショップなどが建ち並び、さらなる活況を呈しています。

復帰の頃



現在



屋富祖周辺(浦添市)

米軍キャンプキンザーの正面ゲートに位置している浦添市屋富祖は、米軍関係者を相手にする小売業などが軒を連ねていました。2021年には国道58号の浦添市城間―那覇市安謝間における慢性的な交通混雑を解消しようと、従来の6車線から8車線に拡幅され、交通混雑の緩和と沿道環境の改善が図られています。

復帰の頃



現在



おんなサンセット海道(恩納村)

恩納村の西海岸を走る国道58号の一部は「おんなサンセット海道」と呼ばれています。一帯は海洋博の開催を機に多くのリゾートホテルや観光施設が進出し、今も多くの観光客でにぎわいを見せています。2018年に恩納南バイパスが全面開通し、観光シーズンの交通混雑も緩和されています。復帰前の写真は1966年の撮影です。

復帰の頃



現在



名護の七曲がり(名護市)

名護市許田から東江までの約8キロメートルの道路は「七曲がり」と呼ばれ、大小含めると約50のカーブがありました。沖縄国際海洋博覧会の開催に伴い改修工事が行われ、完成後は約4.4キロメートルの滑らかな道路に生まれ変わりました。2021年7月には、接続する「名護東道路」が全面開通し、さらなる渋滞緩和や利便性の向上が期待されています。

復帰の頃



現在



沖縄半世紀の変化